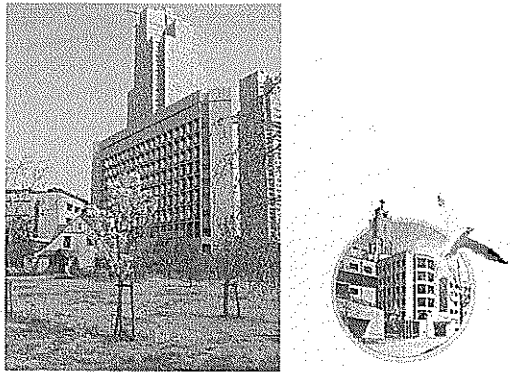


新人看護職員の臨床実践能力の向上に関する検討会資料

新人看護職員研修の実際

聖路加国際病院
佐藤エキ子

聖路加国際病院の概要



聖路加国際病院の概要

- 所在地: 東京都中央区明石町9-1
- 病床数: 520床
- 職員数: 1,189名(非常勤除く、03年10月1日現在)
うち看護職員628名、
内訳: 看護師553名(新採用者87名)、看護助手75名)
- 入院基本料: 一般病棟I群、入院基本料1
- 延べ入院患者数: 13,882名(03年8月)
- 平均在院日数: 11.8日(03年8月)
- 外来患者数(1日2,200~2,600名)

聖路加国際病院の理念

キリスト教の愛の心が
人の悩みを救うために働けば
苦しみは消えて
その人は生まれ変わったようになる
この偉大な愛の力をだれでもがすぐわかるように
あらわせるよう計画されてきた
生きた有機体がこの病院である

▽

- ・キリスト教精神に基づく全人的医療
- ・そのための医療・看護・病院管理
- ・患者中心の医療と看護

聖路加国際病院の運営方針

キーワード

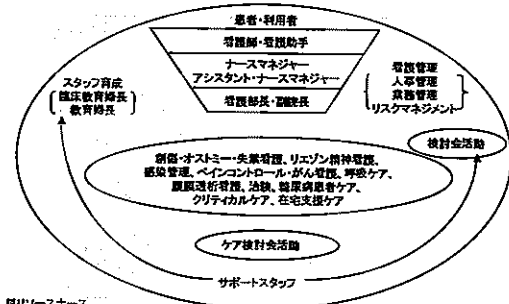
- ・全人的医療
- ・急性期患者の診療を重点的に行う総合病院としての機能
- ・救命救急センターによる一次から三次までの適切な救急医療
- ・予防医療の重視
- ・教育病院としての機能強化
- ・地域の医師との緊密な病診連携
- ・地域住民への適正な医療情報の提供
- ・病院管理機能の強化

聖路加国際病院の院内教育
—新人看護職員のためのプログラム—

聖路加国際病院看護部の理念

- ・ 聖路加国際病院看護部は、トイスラーの病院設立の理念に基づき、患者の生活の質（Quality of Life）の向上を目指し、患者の持つ潜在的治癒力を最高に引き出すことを念頭において看護を提供することに努力する。
- ・ 看護の対象を、疾病の有無に関わらず、あらゆる健康のレベルにある個人、集団としてとらえ、常に患者の立場に立ち、その信条・人格・生活・権利を尊重する。看護ケアの継続と個性を重んじ行動する。

聖路加国際病院看護部組織概念図

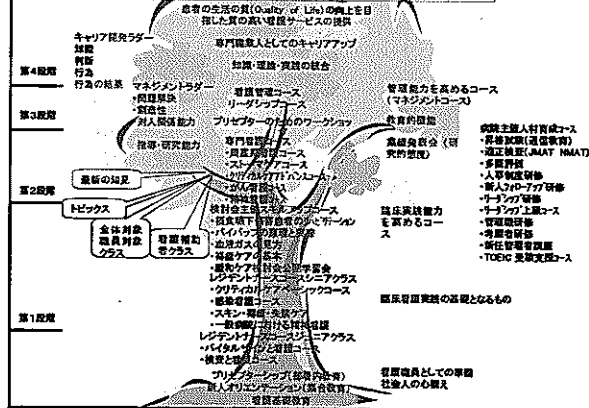


- 副リソースナース
- ・ 新病・オーストミー・失禁看護、WOC看護認定看護師
 - ・ リハビリ看護、精神看護専門看護師
 - ・ 感染管理、感染管理看護師
 - ・ ペインコントロールがん看護、がん看護専門看護師
 - ・ 呼吸ケア、呼吸ケアナース
 - ・ 看護実践看護、PDナース
 - ・ 認知、認知・リハビリ
 - ・ 終末期ケア、緩和ケア推進員
 - ・ ガン・リハビリ、重症集中ケア認定看護師
 - ・ 在宅支援ケア、Discharge Planner

聖路加国際病院のキャリア開発プログラム

- ・ プリセプターシップ
(新人教育はキャリア開発プログラムの第一歩)
- ・ 院内教育プログラム
- ・ キャリア開発ラダー
- ・ 看護部検討会
- ・ 看護部業績発表会
- ・ 病院主催人材育成コース

看護職員キャリア開発概念図



院内教育の理念と目標

1. 教育の理念

- － 聖路加国際病院および看護部の理念に基づき、患者もしくはクライアントのクオリティ・オブ・ライフの向上をめざした質の高い看護サービスを提供できる看護職員の育成をする。
- － そのために、個々の職員の学習ニーズと目標を尊重し、キャリア開発を通して専門職業人としての成長・発達を支援し、知識・理論と実践が統合できるような教育的臨床環境を提供する。
- － さらに、看護実践を通して、自らが努力し主体的に自分の能力開発を行い、それらを臨床で発揮できるように援助する。
- － この理念は聖路加国際病院で働く看護職従事者のみならず、外部研修生、看護学生にも共通である。

院内教育の理念と目標

2. 目標

- － 1) 臨床看護実践能力レベル(キャリア開発ラダー)に基づいたキャリア開発ができるように、臨床実践・教育・管理に必要な知識・技術・態度に関する学習の機会を提供する。
- － 2) 人間愛の精神にもとづき、個人を尊重し、共感をもって人々と関わる事ができる態度を育成する。
- － 3) それぞれの地位と役割に応じたキャリア開発や、看護実践を通し、常に自己成長をめざし、自律して思考し、行動できる能力を開発・育成する。
- － 4) 理論と実践を統合し、質の高いケアモデルを実証するような組織およびリーダーを育成する。
- － 5) 臨床指向の研究を支援するとともに教育・研究・実践間の有機的な関係を促進する。

新人を迎えるレディネスを整えるプリセプターワークショップ



プリセプターシップ期間が終了しても、よき先輩・後輩の関係は変わらない

ワークショップの始めは緊張感があったが、慣れてくるとリラックスして参加している

部署を越えた「ケア検討会」活動で理論と実践の確立をめざす



月に1回行われる「嚥下障害患者のケア検討会」の定例ミーティング



アイスマッサージで患者さんの痛みを促す



呼吸器ケア検討会。検討会メンバーのサポートを受けながら手技を体験する参加ナースたち

臨床実践をイメージした
新卒看護師対象の
基本的看護技術演習

- ◎ 高屋尚子、寺井美峰子、川名典子、佐藤エキ子 (聖路加国際病院)
- 佐居由美、横山美樹、下枝恵子 (聖路加看護大学)
- 高井今日子 (聖路加看護大学大学院)

基本的看護技術演習の目的

- ・ 看護技術に関する理解や実践能力の程度を明らかにする
- ・ 看護技術の「安全」について再確認できる
- ・ 今後の実践において不安または緊張感の軽減ができ準備状態を作ることができる

演習のプログラム内容

模擬患者

80才女性で在宅酸素導入中(鼻カニューレ1L/min)。今回は右大腿骨骨折で2週間前に手術を受けた。現在、安静度は座位はOKであり、リハビリ室でリハビリも行っている。しかし、患者は創部痛があるためベッド上の動きも緩慢で、リハビリや普段の生活行動でも積極性はない。術後合併した肺炎もまだ完治しておらず、1日2回の抗生剤点滴も受けている。

演習の具体的内容

<日常生活行動援助技術>

「患者を胸部エックス線撮影に連れて行くための準備をする。」

<診療援助にかかわる技術>

「患者に医師の指示どおり経口薬と注射薬を実施する。」

演習のプログラム内容

	14:00		15:30
1班	日常生活行動援助技術項目 場所:看護大学実習室		
技術項目	オリエンテーション	点滴挿入中の患者の寝衣の着脱	患者の移送 (仰臥位から座位、車椅子移動) 酸素ポンプの使い方
2班	診療援助にかかわる技術項目 場所:新検査室A		
技術項目	オリエンテーション	与薬の準備	点滴の準備 (混注作業、ラインのセット、三方活栓の使い方) ネームバンドの確認、滴下調節、輸液ポンプの使用

演習の評価

◎演習内容に関して

- ①技術項目の達成度に関する自己評価(行動目標)
- ②看護実践へのイメージ
- ③看護実践に対する不安

◎演習のプログラムに関して

- ①演習内容
- ②インストラクターの指導方
- ③所要時間や時間配分
- ④演習の継続について



診療援助にかかわる技術項目評価表

項目	内容	学習効果の目安	達成度の評価		自分より得意な項目	自分より苦手な項目	自分より得意な理由	自分より苦手な理由
			達成できた	達成できなかった				
呼吸の管理	ローシートで指示の確認ができる。	有・無						
	ローシートと整合しながらオキシメータに値を換算することができる。	有・無						
	通気した後も定期的にローシートと整合して確認することができる。	有・無						
	患者に緊張について説明することができる(呼吸の導管を脱着する)	有・無						
	ベッドサイドでローシートとオキシメータに整合してある状態を統合ワークシートの表書きとチームメンバーとの連携を行い確認できる。	有・無						
プリント/履行期の評価	基本事項と関連をすべてについて理解できる。	有・無						

《日常生活行動援助技術の自己評価》

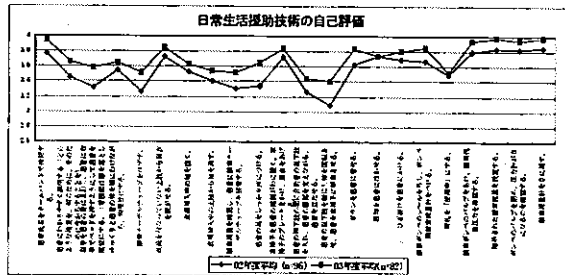
・ 全体平均 02年度:3.56、03年度:3.72

・ 評価が低かった項目

「患者の左下肢を軸にして体を回転させ患者を車椅子に移乗させる」

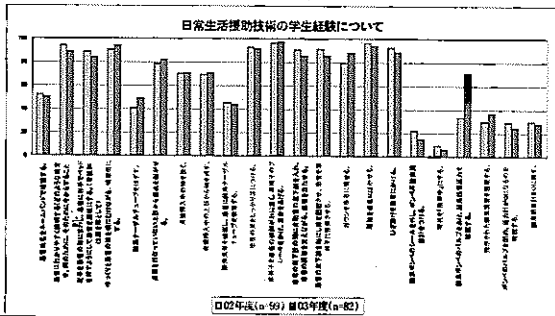
「患者の両下肢の間に介助者の左下肢を入れ、患者の腰部を支えながら患者を立たせる」

日常生活援助技術の自己評価



《日常生活行動援助技術に関する学生実習経験》

■平均 02年度64.7% 03年度65.6%



《診療援助に関わる技術の自己評価》

全体平均 02年度:3.55、03年度:3.64

評価が低かった項目

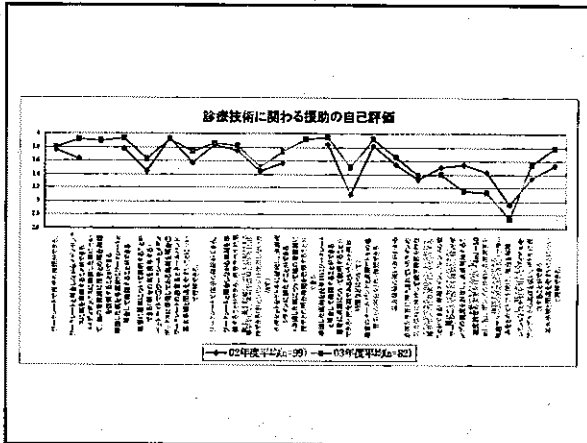
「気泡アラームの対応ができる」(02年度、03年年度)

「患者に点滴について説明することができる」

「点滴を三方活栓に接続し滴下調節を行なうことができる」(02年度)

「速度設定の変更を行いポンプの作動と点滴滴下を確認することができる」

「ワークシートで指示を確認し、輸液ポンプの速度を設定し、滴下を確認することができる」(03年度)



《看護実践へのイメージ》

ほぼ全員が「できた」「まあまあできた」

《看護実践に対する不安》

不安が軽減した

02年度	26.6%
03年度	27.8%

不安がまあまあ軽減した

02年度	59.6%
03年度	65.8%

《演習プログラムの評価》

- ①演習内容
日常よく行なう内容で役立つ など
- ②インストラクターの指導方法
ポイントを指摘、わかりやすく丁寧
- ③所要時間や時間配分
- ④演習の継続について

新卒看護師対象の基本的看護技術演習は

- ・臨床現場で頻繁に遭遇する状況で必要とされる技術の実施
- ・インストラクターによる個別的の指導

により、実践をイメージできる効果あったと思われた。

- ・ その他のプログラムについては資料にて説明します。

聖路加国際病院の看護

聖路加国際病院看護部の理念

聖路加国際病院看護部は、トイスラーの病院設立の理念に基づき、患者の生活の質 (Quality of Life) の向上を目指し、患者の持つ潜在的治癒力を最高に引き出すことを念頭において看護を提供することに努力する。

看護の対象を、疾病の有無に関わらず、あらゆる健康のレベルにある個人、集団としてとらえ、常に患者の立場に立ち、その信条・人格・生活・権利を尊重する。

看護サービスの提供は、患者の個別性を尊重して行ない、看護ケアの継続ができるよう体制を整える。

患者の生活の質の向上を図るために、患者を家族の一員としてとらえ、家族もしくは、本人にとって重要な人々のサポートを行うこともケアに組み入れる。

さらに臨床の場は常に教育の場であることを認識し、看護を学ぶ全ての人々に学習の場を提供する。

聖路加国際病院の看護師として、自らの心身の健康の保持増進に努め、品性を高め責任を持って仕事を行うとともに、国際的な視野をもって自己の能力開発に努力する。

聖路加国際病院看護部は、看護職員が主体的に活動できるしくみを作る。さらに個々の能力を正当に評価することを通して、職員の育成を目指し、これをもって看護の向上に寄与する体制作りを努力する。

1. 看護部の目標

〔個別性〕

(1) 社会的背景、健康状態の如何に関わらず、個人を尊重した看護ケアを提供する。

- ・性別、年齢の発達段階に応じたケアを提供する。
- ・個人の生活習慣を配慮したケアを提供する。
- ・個人の尊厳、権利を尊重し、個人の生き方、思いを大切にされたケアを提供する。
- ・個人の家族や親しい人々との関係を大切にされたケアを提供する。

〔継続性〕

(1) 対象者の生涯を通して、一貫した看護サービスを提供する。

(2) 健康のレベルに応じた適切な健康指導、看護ケア、診療介助を行う。

(3) 院内外の医療、保健、福祉サービスの場と人とのネットワークを活用し発展させる。

〔国際性〕

(1) 人種、信仰、宗教、国籍を問わずどのような人にもヘルスケアを提供する。

[リーダー性]

- (1) 看護のあるべき姿を進取の精神（パイオニア精神）で追求する。
- (2) 日本の看護の実践、教育及び研究の向上に貢献する。
- (3) 患者を取り巻く他職種間の調整役となり、ケアの統合を行い患者に適切なケアを提供する。